

平成27年度スーパーバイザー事業報告書

研究テーマ

「生き方を考える教育の実践」～自律し自立する生徒の育成～

鳥取市立湖東中学校

スーパーバイザー：日本体育大学 角屋 重樹 教授

1 はじめに

本校は、学校教育目標「夢の実現へ向け見通しを持って今を充実して生きる生徒の育成」のもと、「自分で考え、自分で判断し、自分が行動する」生徒の育成を目指している。平成26年度は、スーパーバイザー事業として道徳を中心にした取り組みを行い、成果をあげることができた。

今年度は、「見通し（「学習のめあて」の提示）と振り返り（自己の変容を客観的に振り返る）、主発問を通した生徒に考えさせる授業作り」を行い「授業の中に課題の解決に向けて『協働する』場面を設定する」ことで、「生徒の問題解決能力を高め、学校教育目標の実現にせまることができる」という研究仮説のもと、教科の授業力向上を目的として、各教科における授業づくりを中心に研究を行った。

2 研究のねらい

- (1) 授業づくりのポイントを意識した実践を行うことで、本校の目指す生徒像を実現する。
- (2) 各教科で共通の研究の柱とすることで、全教職員の授業力の向上を図る。

3 研究内容

(1) 研究の概要

- 6月30日 第1回授業研究会（美術） SV 日本体育大学 角屋重樹 教授
- 8月20日 校内研究会（PDCAチェック、道徳、教科、Q-U分析）
- 11月9日 フォローアップ授業研究会（英語）
- 11月16日 第2回授業研究会（英語） SV 日本体育大学 角屋重樹 教授
- 11月26日 初任研授業研究会公開授業（保健体育、社会）
- 12月7日 フォローアップ授業研究会（国語）
- 12月10日 10経年授業研究会（保健体育）
- 12月11日 フォローアップ授業研究会（社会）

(2) 取り組みの具体的な内容

①取り組みの計画と共通理解

- ・研究授業及び公開授業は、初任研、フォローアップ、10経年などの授業研究会と兼ねる。
- ・研究会以外の参観日又は教委訪問など、研究の成果を還元する機会を全員が持つ。
- ・教科の研究会には、担当教科外の教員も参加する。

○研究授業のテーマ

「見通しと振り返り、主発問を通した考えさせる授業づくり」
～生徒同士の主体的な関わり合いの活動を通して～

○授業づくりのポイント

- ・主発問はねらいにせまるものになっているか。
- ・本時のめあて、振り返りを設定した授業展開となっているか。
- ・課題の解決に向けて生徒が協働する場面を設定しているか。

②第1回授業研究会（1年美術）6月30日（指導案 資料①）

○題材名 ～湖東中オリジナル商品開発プロジェクト～「お菓子のパッケージデザイン」



○スーパーバイザーからの指導助言

ねらい・めあてについて

『どうしたら、多くの人に分かりやすく伝えることができるでしょうか。』

- ・「言語活動」が意識されている。
話し合い活動、表現活動が取り入れられている。
- ・教科としての特性をふまえたものか。
美術ならば「色・構成」など、説明の中に美術の用語を入れると良い。
- ・「教科の本質」にせまるものか。
各教科の対象（領域）と目指すところ（獲得するもの）。
- ・各教科における言語活動とは。
教科の言葉に翻訳すること。

アクティブラーニングと班活動の違い

- ・従来の班活動
結果だけの報告。
- ・アクティブラーニング
結果に行き着くまでの過程、手続きにも関わる。
見通しを持って班活動をすること。

話し合いの意義

- ・なぜ子ども同士が話し合うのか。必要性は？
「自分にないものを人から指摘してもらう」ため。
他者との関わりの中で成長できる。
他者も自分と同じ価値を持った尊い存在である。
だから他者を大切にすることが必要。
- ・まず、個の確立→他者からの影響で成長する。
- ・個の確立（自分の意見、デザイン）がないと、他者表現のみに振り回される。

なぜ、振り返りをさせるのか

- ・前提：人間は変容していく存在。
- ・評価観を変える。
- ・自分で自分の変容に気づき、自己改革、自己変容する生徒を育てたい。自己評価の根本。
- ・30年後に「自分で目標を見つけ、自分で解決する力」をつけたい。アクティブラーニングの目的。方法論、手続きのみでは足りない。

○参加者の感想

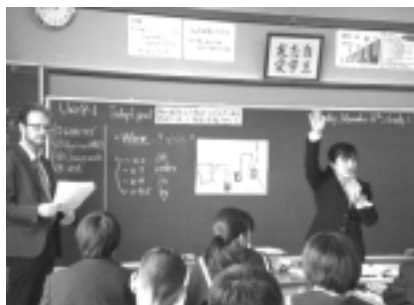
- ・振り返りについて言われた、「自分で目標を設定し、実現に向けて取り組む」生徒の育成について印象に残りました。自分の目標設定のために、振り返りの中に疑問、感想をいれると次時につながるのではないかと思います。

[無断転記不可]

・「めあて」「話し合い」「振り返り」の3点の中で、自分は「振り返り」をもっと改善すべきだと感じた。今日の学習の内容を確認するのみで、自分の変容を気づかせるまで、できていない。今日の研究会で学んだことを少しでも自分のものにできるようにしたいと感じた。

③第2回授業研究会（1年英語）11月16日（指導案 資料②）

○題材名 「場所をたずねる Where とその対応を用いた表現活動」



○スーパーバイザーからの指導助言

アクティブラーニングについて

- ・「アクティブラーニング」とは。
「主体」「協働」の2面。
- ・子どもは授業で主体となったか？
主体にならないと「やらされ感」が生じる。
- ・子どもにどうやって必然と思わせるか。
- ・子どもにとっての学ぶ意味は？

教科の本質について

- ・なぜ英語を学ぶのか？
相手に「伝える」ため。
ヒントから「誰の部屋かを当てさせたい。」
- ・伝えたいことがあるからコミュニケーションが成立する。
- ・英語＝技能教科とよく言われる。その本質は？
- ・スキルに重点化しすぎると英語嫌いが生まれる。
しかし、現実としてはスキルが必要。
全て覚えるのは無理な生徒もある。
重要な物にしぼり、「自己決定、自己責任」で+αを選択させる。
- ・「自分の知識が広がることの喜び」を感じさせたい。
アクティブラーニングの本質。手続き学習ではない。
「学習の必然性、学ぶ楽しさ」が大事。
- ・「学習の必然性」はどの教科にも共通。
ただし、全単元、全場面ではできないことではない。
ドリル的にやらねばならないことも当然ある。

協働という視点で考えると

- ・「協働が目的」ではない。
- ・「目的に向かって解決のために協働する」のがアクティブラーニングの真の姿。
- ・「自分が考えていることと相手が考えていることの違いに気づく」ことで成長できる。
- ・目的を明確に顕在化させることで、本質に近づく。
- ・目標を下位に分類しそれぞれに役割を持たせ、一つでも欠けたらダメなように仕組む。

○参加者の感想

- ・アクティブラーニングのことも分かっていたつもりの部分が多く、今回の研究会ではっきりしたことがあった。毎回の授業の中でも主体的に生徒が学べるように教材研究をしていきたいと感じた。
- ・アクティブラーニングについて、何を大切に考えるべきかよく分かりました。学習の必然性「なぜ学ばなければならないのか」を生徒にどう持たすのか。学ぶ楽しさをどう伝えるのか。教科の本質。これからしっかり考えていきたい。

4 研究のまとめ

(1) 成果

- ・授業研究会をきっかけとして授業のねらいやめあて、主発問、振り返りについて改めて考えることにより、教職員の授業力が向上した。校内授業評価アンケートの結果、各教科とも肯定的評価をした生徒の割合が増加した。
- ・スーパーバイザーの指導助言により、各教科における授業の本質や授業づくり、アクティブラーニング、協働についての理解が深まった。
- ・授業展開の基本となる「湖東中授業スタンダード」を作成し、活用した。
- ・湖東中校区共通アンケート（全校生徒対象 11月実施）における、自律し自立する姿勢に関連した項目を、平成26年度と平成27年度で比較したところ、
「自分でめあてを持ち、意欲的に自学に取り組んでいる」65.8%→70.5% (+4.7%)
「人に流されることなく正しい事を自分で判断し、行動している」82.3%→84.8% (+2.5%)
となっており、二年間の取り組みにより、生徒の自律し自立する姿勢が向上してきたことが窺える。

(2) 課題

- ・生徒が協働するための基礎となる人間関係づくりについて、3年間を見通し系統立てて指導していく必要がある。現状では学年毎に生徒の状況に応じた取り組みを行っているが、より適切なものとなるよう研究をしていきたい。
- ・話し合い活動の基本的なルール作りを行いたい。現状では担任や授業者によって話し合いのルールやグループが異なる状況があるため、学校としてのルールを作り、あらゆる場面で活用したい。
- ・授業の「まとめ」と「振り返り」について見直しをする必要がある。特に、まとめと振り返りが区別されていない状況が見られるため、「湖東中授業スタンダード」に基づき、改善していきたい。「まとめ」については学習内容について自分で確認できるようなものに、「振り返り」については自己の成長や変容について言語化することで確認できるような基本型を作成したい。

資料①

第1学年 組 美術科学習指導案

平成27年6月30日(火) 5限
場 所 多目的教室
授業者

- 1 題材名 ～湖東中オリジナル商品開発プロジェクト～ 「お菓子のパッケージデザイン」
A表現(2)、(3) B鑑賞

2 題材について

社会におけるデザインの役割は、生活に豊かな彩りや潤いを持たせ、日常生活を楽しく有意義にすることである。そして、流通や経済が発展しニーズが多様化した現代社会において、パッケージデザインは内容物よりも先に生活者の知覚に作用する情報技術であり、包装のデザインが商品の成否を分けるといわれている。本題材は、生徒が個々にオリジナルのお菓子を商品開発し、パッケージを制作するものである。身のまわりに溢れる「デザイン」の中でも、お菓子などのパッケージデザインは生徒にとって身近で慣れ親しんだ「デザイン」である。したがって伝えたい内容をわかりやすく伝えることや、使うことなどの目的や条件、機能と美の調和などを考えて発想し表現の構想を練り、意図に応じて材料や用具、表現方法を工夫するという「デザイン」の基礎・基本的な知識・技能の習得を、関心・意欲を持って取り組める題材であると考えられる。

本学級の生徒は、発表など教師の問いかけに対する反応は積極的であり、全体の場で意見交換できる雰囲気がある。学級活動においても日頃から班活動を多く取り入れ、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる力の育成を図っている。また1年生ということもあり個性溢れる豊かな発想が期待できる。しかしながら頭の中ではイメージが生まれても、それをどうしたら具体的に表現したらよいか分からないなど、表現に対する苦手意識を持っている生徒は少なくはない。

デザインの分野は、目的や条件などを基に、他者の立場に立って伝えたい内容について美的感覚を働かせて分かりやすく表現する力が求められる。指導にあたっては、導入で作品鑑賞を行い、商品やデザインについて理解を深めさせたい。そして企画立案では生徒アンケート(市場調査)を活用し、言葉のスケッチ、思いついたアイデアを生徒同士で意見交換させ、イメージの具現化へとつなげたい。また、各自がパッケージデザインについて他者と意見を交換することにより、多くの人が共通に感じる形や色彩などの感情効果などについて理解を深めさせ、言語活動を通して、美術科における「思考力」・「判断力」・「表現力」を育成したい。

3 題材の目標

伝達の表現に関心を持ち、お菓子の味のイメージなどを基に表現の構想を練り、表現方法を工夫し、創造的に表現するとともに、伝達性と美しさの調和などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
パッケージのデザインの造形的な美しさなどを総合的に考えて、伝えたい内容をわかりやすく伝えることや購入する人の気持ちを考えるなど、関心を持ちながら主体的に構想を練ろうとしている。	お菓子の味のイメージなどの伝えたい内容を他者の気持ちなどを考慮し、形や色彩の効果を生かして、表現の構想を練っている。	絵の具や色鉛筆などの特性を生かし、新たな表現方法を工夫し、制作手順などに見通しを持ちながら、創造的に表現している。	造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、伝達性と美しさの調和などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。

5 本時について

(1) 学習時間(全10時間)

- ・生徒事前アンケート(市場調査I)を基に、企画書を制作する・・・1時間
- ・企画書を基にデザイン(アイデアスケッチ)を考える・・・2時間
- ・各自のデザインコンセプトを班で説明し合い、各自のデザインを明確化し表現する・・・1時間(本時)
- ・パッケージの制作・・・5時間
- ・品評会(鑑賞)・・・1時間

(2) 本時の目標

各自のデザインのコンセプトを班で説明し合う活動（市場調査Ⅱ）を通して、アイデアを練り直しながら自分の伝えたいイメージをさらに明確化し、形や色に変換することができる。【創造的な技能】

(3) 本時の評価

A（十分満足できる姿）仲間の意見を活用し、伝えたい内容を多くの人々に印象深く伝えることができ、形や色彩などの効果を生かして創造的に表現している。


B（概ね満足できる姿）伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、仲間の意見を活用し、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさを考え、表現することができる。

（支援が必要な生徒への手立て）机間巡視し、個別に支援する。

(4) 準備物

企画書、参考作品、下書きワークシート、清書用紙、プレゼン用振り返りシート、市場調査Ⅰ、テレビ、タブレット

(5) 学習過程

	学習活動	○主な発問・予想される生徒の反応	・留意点○評価【観点】（方法） ※手立て
導 入	1. 既習事項の確認	○商品開発（デザイン）する上で大切なことを確認しよう。 ・多くの人に分かりやすく伝えること	
展 開	2. 本時のねらい（めあて）を知る。		
	○どうしたら自分の商品コンセプトを多くの人に分かりやすく伝えることができるでしょうか。		
	3. 各自の商品コンセプトやそのための表現の工夫を班で説明し合う。	○それぞれ商品コンセプト（形、色彩、工夫）について説明し合ひましょう。 ・「食べるとひんやりする」→青系の色 ・「辛い」→赤系の色 ・「一粒で味が様々に変化」→虹色、渦巻き ・「学力アップ」→矢印の形 	・デザインの意図や工夫について班で紹介し合い、班員（消費者）の意見を基に多くの人が共通に感じる形や色彩などの感情効果などを考えてデザインを再検討（コンセプトの決定）させる。 ・説明を聞きながら、アドバイス（修正・共感）を付箋に記入させる。 ・各班員からのアドバイスを企画書に張らせる。
	4. 全体で話し合いの振り返りをする。	○班員からもらったアドバイスを教えてください。 ・「ふわふわ」→雲の形を使うといい ・「甘い味」→丸い形で表現するといい	・他者の意見を聞くことで自分一人では気づけなかった発見ができることを気づかせる。
	5. 色彩の基礎知識を知る。	○色の性質について学習しましょう。	・暖かい、寒い、軽い、重い、強い、弱いなど色の感情についておさえる。
	6. 友だちからもらったアドバイスを基にアイデアを練り直し、本番の制作に入る。	○班員からのアドバイスを参考にアイデアに修正を加え、本番の制作に入ります。	○表現方法を工夫するなどして、自分の伝えたいイメージを分かりやすく表現している。 【創造的な技能】（作品） ※机間巡視し、個別に支援する。
ま と め	7. 振り返りをする。	○振り返りシートにまとめよう。	・振り返りをとおして、自分の変容に気づかせる。

資料②

第1学年 組 英語科学習指導案

平成27年11月16日(月) 第5限

場所 1年 組教室

授業者

1. 単元名 New Horizon English Course 1 Unit 8 ナンシーに会いに

2. 単元について

本単元では、冬休みにさくら、一郎、ベッキー、ケビンが海外旅行に行く場面が設定されている。サンフランシスコ到着の場面を話題にしており、自分の持ち物を探したり、持ち主について尋ねたり、第三者について質問したりと、身近な場面で使用できる表現を用いて会話が進められている。言語材料としては、疑問詞 **where** と **whose** を用いた疑問文とその応答の仕方、目的格・所有格の人称代名詞が扱われている。身の回りのものや自分の物についての表し方を学ぶことにより、生徒の表現の幅を広げるのに適した題材である。

本学級は、素直で元気な生徒が多く、発音練習や音読も積極的に大きな声で取り組み、英語を使うことへの意欲的な態度が見られる。しかし、今まで学習してきた **be** 動詞や一般動詞の疑問文には、**Yes** や **No** では答えられるが、疑問詞を使った質問には、答えることが難しい生徒もいる。また、その場では内容を理解しているようでも、後でテストを行うと、定着していなかったりすることがあるのが課題であると考えます。

指導にあたっては、今まで学習してきた疑問詞を使って、自分の知りたい情報を得る場面を多く取り入れることで、基本的な文法事項を核として、それらを色々な状況での会話に適応・運用できる力の育成を目指したい。そして、グループワークや友達の発表を聞くことで、新たな表現の発見をしたり、互いに英語を使って表現し合う中で、上手に伝えることができたりという達成感を感じられるような学び合いを大切にしたいと思う。英語を使って表現する活動が難しい生徒に対しては、例文を示したり、ペアやグループワークでの関わり合いの中で課題を解決させたりなどの手立てを行っていききたい。

3. 単元の目標

- 疑問詞を用いて、コミュニケーション活動を積極的に行う。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- 疑問詞や代名詞を用いて、物の場所や持ち主、人について尋ねたり答えたりすることができる。

【外国語表現の能力】

- ベッキーたちの日常的な会話の内容を理解できる。

【外国語理解の能力】

- 疑問詞 **where, whose** を用いた文とその応答の仕方・意味・用法を理解する。

人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解する。

【言語や文化についての知識・理解】

4. 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・疑問詞を用いて、コミュニケーション活動を積極的に行うことができる。	・疑問詞や代名詞を用いて、物の場所や持ち主、人について尋ねることや、前置詞を使って答えることができる。	・登場人物に関する情報を読み取ることができる。	・疑問詞を用いた文とその応答の仕方・意味・用法を理解する。 ・人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解する。

5. 指導と評価の計画

時	中心となる学習内容	具体的な評価規準	観点				評価方法
			関	表	理	知	
1	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 where とその答え方の習得 インタビュー活動 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 where を用いて尋ね、前置詞 in, by, on, under を使って答えている。 	○			○	観察 ワークシート
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 where とその答え方の活用と定着 グループ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 where や位置を表す前置詞を用いて、部屋の中にあるものについて適切に尋ねたり、答えたりすることができる。 				○	ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> Kevin と Sakura の会話の内容を理解する。 (Unit8 Part1) 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を理解できている。 			○		ワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 whose とその答え方の習得 インタビュー活動を通しての練習 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 whose を使った質問に所有代名詞を使って答えている。 	○			○	ワークシート 観察
5	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容理解 (Unit8 Part 2) 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を理解できている。 			○		ワークシート
6	<ul style="list-style-type: none"> 人について尋ねたり、それに答えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人称代名詞の目的格の形式・意味・用法を理解し、表現できる。 		○		○	ワークシート
7	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容理解 (Unit8 Part 3) 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を理解できている。 			○		ワークシート

6. 本時のねらい

○疑問詞 **where** と位置を表す前置詞を用いたグループ活動を通して、部屋の中にあるものについて適切に尋ねたり、答えたりすることができる。【言語や文化についての知識・理解】

7. 本時の評価規準

「十分満足できる」状況	「おおむね満足できる」状況	「努力を要する」生徒への手立て
<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 where や位置を表す前置詞を正しく用いて、部屋の中にあるものについて適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> やや正確さに欠けるが前置詞 where や前置詞を正しく用いて、部屋の中にあるものについて表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 前置詞についてのヒントを与え、答えとなる英文を導く。

8. 準備物 部屋の絵、アイテムカード、ワークシート

9. 学習過程

学 習 活 動	○主な発問・予想される生徒の反応	・留意点○評価【観点】(方法) ※手立て
1.ウォームアップをする。	○60秒クイズをしましょう。	・英語の学習に対する意欲を高めるようにする。
2.「学習のめあて」の提示 3.コミュニケーション活動 (1)前置詞in, by, under, onを使った答え方を復習し、口頭練習をする。	○物の場所を尋ねたり答えたりする表現を使って、部屋を完成させよう。 ○物の場所を尋ねたり答えたりする言い方の復習をしよう。 ・Where is a book? -A bag is on the desk. ・Where is a racket? -A racket is by the desk.	・本時の学習のめあてを提示することで、見通しを持って学習に取り組ませたい。 ・部屋の絵を示しながら、on, under, in, byを使って場所を表す答え方の確認をする。
英語で部屋の説明をして、どの先生の部屋かを当てよう。		
(2)各班に4または5つのアイテムが配られ、部屋のどこにあるのかを順番に発表する。 ①順番にカードをひき、Where...?を使ってそのアイテムの場所を尋ねる。 ②アイテムの場所を知っている人が答える。 ③アイテムカードを部屋の絵に貼り付ける。 (3)部屋にあるものを参考に何先生の部屋なのかを考える。 (4)グループごとに部屋の物の場所を発表し、何先生の部屋なのかをみんなの前で発表する。	○すべてのアイテムが部屋のどこにあるのか情報を伝え合って、部屋を完成させましょう。 ・Where is a book? ・A book is on the desk. ・Where is a piano? ・A piano is by the chair. ○それが何先生の部屋なのか考えよう。 ・A notebook is on the table. ・A ring is in the box. ・This is Mr.~'s room!	・活動がスムーズに行われるように、カードを用いて、whereを使って質問する人、答える人の役割を明確にする。 ・アイテムとその場所をワークシートに記入させる。 ○疑問詞 where や位置を表す前置詞を用いて、部屋の中にあるものについて適切に尋ねたり、答えたりすることができる。 【言語や文化についての知識・理解】 (ワークシート) ※前置詞についてのヒントを与え、答えとなる英文に導く。 ・クイズ形式にすることで、グループでの活動を、さらに意欲的に取り組めるようにさせたい。 ・聞いている生徒たちにも、英文から何先生かを予想させる。
4.振り返りをする。	○自己点検カードに、学習内容や分かったことなどを記入しよう。	・机間指導をして、生徒の様子を観察する。